



<ベトナム・リサーチ・特別レポート>

情報提供用資料

2020年8月24日

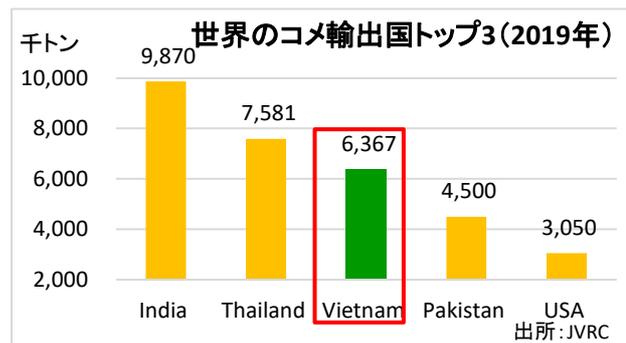
ベトナムのコメ産業

ベトナム経済は、全面的に世界経済と深くかかわっていますが、特に輸出は経済の重要な柱になっています。ここ数年、輸出額が10億ドルを超えた品目数は約30に達し、その内輸出額が50億-100億ドルを超えた品目も半分を占めています。ベトナムの農水産物は世界中の多くの国で認識され、その輸出額は過去10年間で輸出総額の約20%を占めています。ベトナムの強みのある商品は米、コーヒー、コショウ、魚介類、果物、野菜などです。本レポートでは、ベトナムのコメの生産・輸出に焦点を



あてます。右上の「Vietnam Rice」という表示は、2018年12月18日に農業農村開発省により正式に発表されたロゴ・マークです。

ベトナムは、2019年のコメ輸出量では世界第3位にランクし、世界のコメ総輸出量の約15%を占めています。また、直近の2020年1月～7月の輸出量は390万トンとなり、タイを上回り世界第2位となりました。1980年代後半からの「ドイモイ」政策が増産への刺激となり、ベトナムのコメ輸出は国内の大幅なコメ増産に支えられてスタートしました。ベトナム政府が1990年代半ばから推進した工業化・近代化の影響を受け、コメの生産面積は他の目的に転用され減少傾向にあります。しかしながら、科学技術の活用、高収穫量・高品質の新品種の研究・導入、生産機械化などが寄与し、米の収穫量は大幅に増加しています。その結果、1990年代前半にはわずか300万トンであった輸出量は、2019年には636.7万トンに増加しました。2019年11月にフィリピン



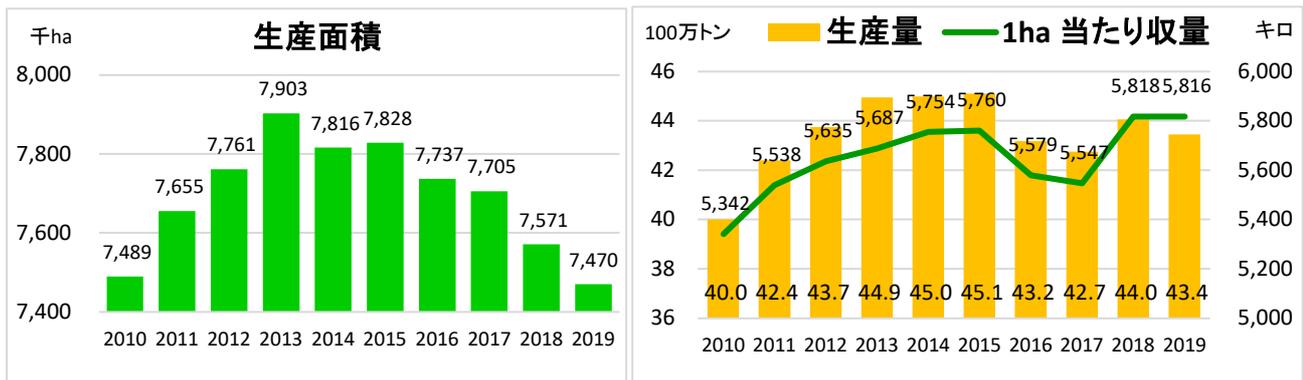
当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社（CAM）が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



2019年に世界最高のコメ品種（プレミアム香り米 ST25）と労働者の英雄の称号を得たホークアングア氏（長年研究を続け最も優れた米の品種 ST25 を作り出した）の写真。備考：①労働者の英雄の称号とは生産と仕事において創造性の精神を持ち、優れた成果を上げ並外れた業績を確立した労働者集団・個人に授与される最高の名誉の称号です。②ワールドベストライスコンテストは10年以上の歴史を持ち毎年開催されます。過去数年間の最優秀賞はタイ（5回）、カンボジア（3回）、アメリカ（2回）等でした。

のマニラ市で第11回世界コメ貿易会議が開催されましたが、同会議中に開かれた「ワールド・ベスト・ライス・コンテスト(World Best Rice Contest)」で、ベトナムのプレミアム香り米である「ST25」がタイとカンボジアをしのぎ最優秀賞に選ばれました。

2010年～2019年、ベトナムのコメ生産面積は約750～800万ヘクタール(ha)で推移し、年間生産量は4,000～4,500万トンに維持されています。前述の通り、ベトナムの経済構造の変化に伴い、コメの生産面積は他の目的に転用され減少傾向にあります。また、コメの生産は天候に多大の影響を受けるため、例えば2016年と2017年にはエルニーニョ現象による干ばつで減少しましたが、2018年から再び増加に転じました。最近は先に述べたように先端技術の導入などが寄与し、2019年の1ヘクタールあたりの収量量が2010年に比べ8.9%増の5,816キロになり生産性が格段に向上しています。



出所: いずれも GSO

コメは主に紅河デルタとメコン川デルタで栽培されており、総栽培面積のそれぞれ13.5%、54.5%を占めます。特筆すべきは両地域の高い1ヘクタールあたりの収穫量(2019年)で、それぞれ6,060

当資料は、情報提供を目的として、キャピタルアセットマネジメント株式会社(CAM)が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAMが運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。

キロ、5,970 キロで、全国平均の 5,816 キロを上回っています。主なコメ産地は、南部のキエンザン省、カマウ省、ソックチャン省、バクリエウ省、ティエンザン、ベンチェなどと北部のナムデン省、タイビン省、ハイフォン市などです。

過去 10 年間、価格、天候、世界の需給等の多くの要因により、ベトナムのコメの輸出状況は変動しましたが、輸出量の面で世界 3 位を維持しています(直近時は世界第 2 位)。2020 年初頭の

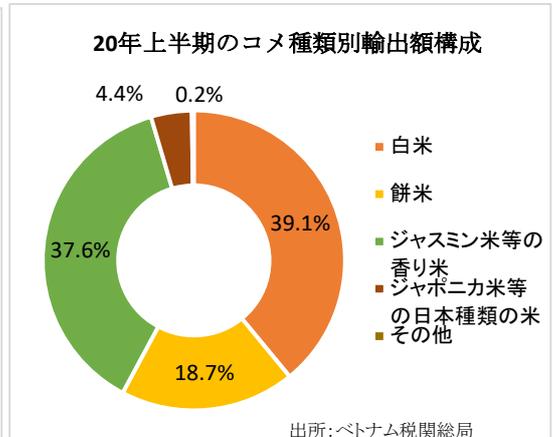
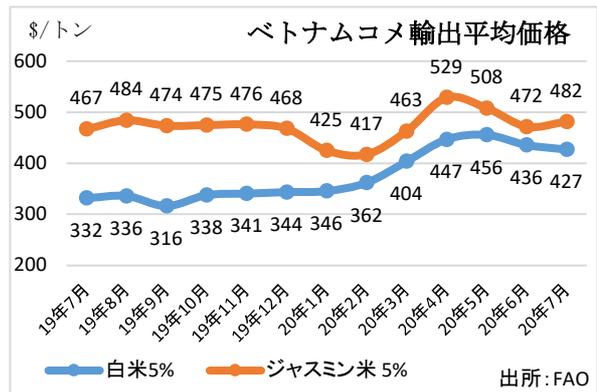
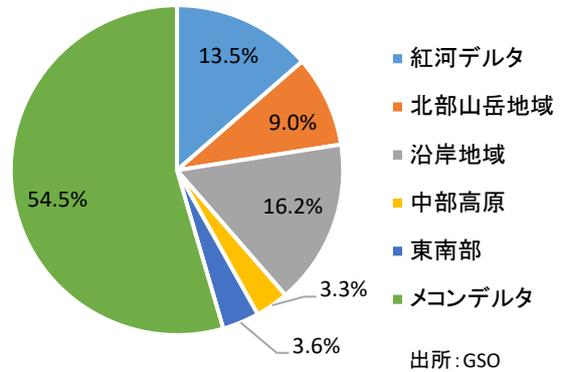
Covid-19 発生以来、外国のコメの備蓄需要が拡大したため、今年上半期のベトナム米の輸出価格も輸出量も増加しています。1トンあたりコメ平均輸出価格は、487.6 ドルに達し前年同期比で 13%上昇しました。なお、香り米 5%の混合米のコメ価格については、ベトナム産が 1トンあたり 493~497 ドルと、タイ産の 473~477 ドル、パキスタン産の 423~427 ドルなどを上回りました。輸出量も

同 5%増の 352.2 万トンで、コメ輸出額も同 18.5%増の 17.2 億ドルに急増しました。輸出コメの種類は、白米、ジャスミン米、香り米の 3 品種で全体の約 80%を占め、もち米は約 15%前後で、残りはジャポニカ米と日本のコメ品種等です。

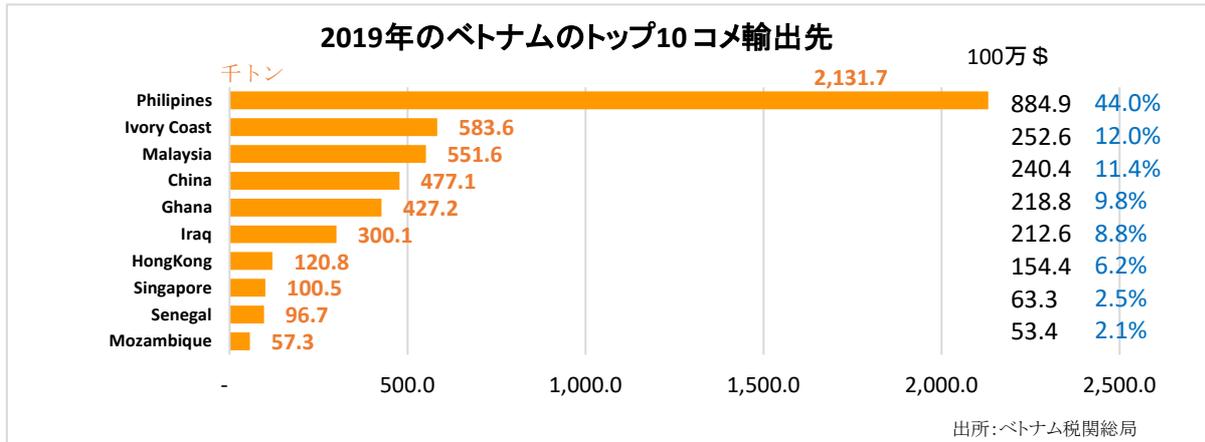
ベトナム米の輸出先は世界 151 カ国と広範囲におよびますが、その中でアジアが市場シェア約 60%とトップです。その他の輸出先はアフリカ、アメリカ、ヨーロッパで、それぞれ輸出量の 22%、8%、5%を占めています。

ベトナムの輸出米の種類も多様化が進み、高品質米や香り米は 10 年前に総輸出量の約 10%でし

ベトナムのコメ栽培エリアの分布



当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



たが現在は約 60%になっています。もち米、ジャスミン米、ジャポニカ米などの高品質米はコメ輸出先でますます人気が高まり、2023 年までにこの比率は 75%に伸びると予想されています。

しかし、ベトナムのコメ産業には課題があるのも事実です。大量のコメを輸出していますが輸出価格はまだ低いと評価されていて、美味しい種類のコメを多く輸出しているもののヨーロッパやアメリカ等の高い市場基準をまだ満たしていません。また、コメ生産は比較的小規模で一定以上の機械化は難しく、ベトナム農家の 1 ヘクタール当たり年収はタイの 37%、インドネシアの 67%の水準です。



今後の展望に関して国連食糧農業機関 (FAO) は、世界のコメの消費量は 2018 年の 5 億 910 万トンから 2020 年には 5 億 1340 万トンに拡大 (+8.4%) すると予測しています。さらに、2021 年のコメ輸入国の状況ですが、フィリピンは 80 万トン増大し、ナイジェリア、サウジアラビア、アラブ首長国連邦などは各国 20 万トン増えることが見込まれています。一方で、2020 年の長引く干ばつや自然災害のあおりで、インドとタイのコメ輸出は減少が予想され、さらにタイのコメ価格が上昇していることから、輸入業者は他の輸入先を模索しています。この動向は、ベトナムにとってコメ輸出をさらに拡大する機会になると言われています。

当資料は、情報提供を目的として、キャピタル アセットマネジメント株式会社 (CAM) が作成したもので、投資信託や個別銘柄の売買を推奨・勧誘するものではありません。また、CAM が運営する投資信託に当銘柄を組み入れることを示唆・保証するものではありません。当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。



以前はベトナムのコメ輸出割当量は一定の制限が設定されていましたが、最近では輸入相手国によっては緩和される傾向にあります。EU ベトナム自由貿易協定(EVFTA)が発効し、欧州委員会はベトナムからのコメ輸入割当量は年間 8 万トンである旨を公表しました。また、EVFTA により 3~5 年後コメ製品の輸入税率は 5~45%から 0%に引き下げられます。もちろん、ヨーロッパ人のコメ品質や種類に対する嗜好はアジア人と異なりますが、ベトナム企業側でもその面の研究は進んでいます。その結果、同市場への輸出がさらに拡大することが見込まれています。

コメ産業の発展を促進するために、2017 年にベトナム政府は 2030 年に向けてコメ輸出市場の拡大戦略を策定しました。主要な政策は、メコン川デルタでコメ生産の投資に焦点を当て、世界市場でベトナム米の商品名を確立し、また高品質米や有機コメ等の生産者に優遇政策を実施することです。ベトナムのコメ産業は、問題を克服するとともに利点を活かし、今後も成長を維持し数多くの高付加価値コメ製品を生産・輸出することが期待されています。



新しいコメ品種の研究



生産の機械化

【写真提供:JVRC】

<http://www.capital-am.co.jp>

以上